第 54 回　大学美術教育学会 全国大会

平成 27 年度　日本教育大学協会全国美術部門協議会・総会

横浜大会〈最終案内〉

会　期：平成２７年９月２０日（日）、２１日（月・祝）

会　場：横浜国立大学

○大会テーマ	「多様な文化の時代における図画工作・美術科教員の育成」
○内　　容	企画行事、研究発表、総会、懇親会など
○企画・運営	横浜大会実行委員会
○主　　催	日本教育大学協会全国美術部門、大学美術教育学会
○協　　賛	横浜国立大学
○後　　援	神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会

１．日　時：**2015 年 9 月 20 日（日）・21 日（月・祝）**　全国大会及び総会ほか
※ 9 月 19 日（土）大会前日諸会議

２．会　場：**横浜国立大学**　〒240-8501　横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-2
教育人間科学部（第６講義棟、第７講義棟、教育文化ホール）

３．参加費：会員・一般　事前申込：4,000 円　　当日申込：5,000 円
院生・学生　事前申込：2,000 円　　当日申込：3,000 円　　※現職教員含む。
懇親会：4,000 円（会場：横浜国立大学内　第一食堂）

４．申込方法
横浜大会の参加及び発表申込については、オンライン大会登録受付システムを使って行います。
（2015 年 9 月 1 日で締め切りました。）参加申込は当日でも可能です。

５．問い合わせ先

■オンライン登録システムに関する問い合わせ
中西印刷　大会システムサポートデスク
（参加申込・発表申込・概要集）
Tel: 075-415-3661　E-mail：uaesj54@nacos.com

■大会に関する問い合わせ
教大協全国美術部門・大学美術教育学会
横浜大会実行委員会委員長　渡辺邦夫
Tel: 045-339-3454　E-mail: kuniow@ynu.ac.jp

■大学美術教育学会　学会総務（総務局長：芳賀正之）
事務部長：佐藤聡史 〒389-0406　長野県東御市八重原 2912
E-mail: daibibumon@po15.ueda.ne.jp

ごあいさつ

平成 27 年度大学美術教育学会（横浜大会）並びに、日本教育大学協会全国美術部門総会・協議会を横浜国立大学で開催いたします。口頭発表、ポスター発表、ポスター展示の研究発表、シンポジウム（詳細後述）、学部大学院の学生の為の美術教育学生会議などが開催されます。また、新たに、大会併設企画「かながわ造形教育実践フォーラム」を開催、地元現職教員による授業実践報告の展示と共にセッションを企画しました。大学の研究者教員が養成してきた教育現場の教員との交流や連携こそ最も大切なことではないかと考えての企画です。会員の皆様、並びに、興味関心のお有りの方ならどなたでもご参加いただけます。振るって御参加の程、心よりお待ち申し上げます。

横浜大会の全体テーマは、「多様な文化の時代における図画工作・美術科教員の育成」です。急速な国際化・情報化に伴い「多様な文化や差異を受容する新たな教育理念」が必要とされる今日、様々な「感性」や「表現」、そしてそれを開く「教員養成の未来」について、光を当てて参りたいと思います。今、子ども達を取り巻く社会や自然の環境には大きな変動が起きています。

今こそ、人はどうあるべきか？何をなすべきなのか？何が必要なのか？といった、人が生きる意味や人の存在そのものに深い問いかけが必要になってきています。本大会は「図画工作・美術科教員の育成」を全体テーマとしてかかげ 図画工作・美術教育の意義を深い次元で問い直す大会としたいと思います。

大会シンポジウムのテーマは「美術の現状　教科としての価値の再定義」としました。図画工作・美術という教科が、現在、置かれている現状と課題について教科の外部からの視点も必要です。

そのために、特別外部招聘パネリストとして、東京国立博物館学芸企画部企画課デザイン室長の木下史青 氏をお迎えし、19 世紀から 20 世紀にかけて視覚聴覚のアナログメディアが出現、20 世紀後半にデジタルメディアに移行した世界に於いて、本物、或は、モノのもつ価値について再考したいと思います。またもう一人、特別外部招聘パネリストとして、イタリアルネサンス期の美術を専門とする一方、美術研究の方法論の最先端でご活躍され、「思考のイメージ論的転回」というテーマを提唱されている京都大学人間環境学研究科の岡田温司 教授もお迎えし、芸術の概念自体が変容した 20 世紀に続く、21 世紀に於ける「図画工作・美術科教育の将来あるべき姿」について、多角的に議論します。

図画工作・美術科教員の養成に於いて、教員を目指す学生は何を学修するのか。とりわけ、子どもたちの能動的で創造性豊かな学びが要求されている現代に於いて、「感性」と「表現」の教科である図画工作・美術科はいかなる役割を果たしていくのかについて考えたいと思います。

今、様々な「時代の岐路」に於いて、子どもの成長・発達に美術教育が如何に貢献できるのか、図画工作・美術科の教科の必要性そのものが改めて問われているのではないでしょうか。本大会は美術教育に関する最新の研究や提言、並びに参加者の皆様との交流の場を複数準備しております。是非、御参加いただき、参加者の皆様方、相互に実りある大会となりましたらなら、開催大学としてこれに勝る喜びはございません。重ねて多数のご参加の程、お願い申し上げます。

横浜大会実行委員長　　渡辺邦夫

【大会前日の諸会議】

平成２７年９月１９日（土）役員会、各委員会（会場は当日掲示）

12:00～	受付　教育人間科学部講義棟（第７講義棟）
12:30～13:30	拡大総務局会議【正副理事長・正副代表・総務局員】
13:00～14:00	全美協　役員会【私学】
13:30～14:00	全造連大学委員会【部門委員会委員】 ※全国大学造形美術教育連絡協議会 （年１回の美術部門全造連大学委員と全美協の懇談会）
13:30～15:20	【学会委員会委員】　学会誌委員会

14:00～15:20 ※審議延長 17:30 まで可	【部門委員会委員】 全国学校美術教育支援委員会 ・附属学校部会 ・学校教育支援部会	【部門委員会委員】 特別課題検討準備委員会	【学会委員会委員】 国際交流会
15:10～15:30	受付【学会・部門共通】		
15:30～16:30	拡大理事会【学会理事役員＋部門委員役員（共通審議事項を含む）】		
16:30～17:30	美術部門協議役員会【部門委員役員】		

第１日目

平成 27 年 ９月 20 日（日）教育人間科学部（第６・７講義棟-教育文化ホール）

8:50～	学会・部門　受付（第６講義棟１階入口：正門徒歩 10 分）	
9:20～9:50	日本教育大学協会全国美術部門 第 54 回大学美術教育学会全国大会　横浜大会 合同開会式 （第６講義棟：6-101）	ポスター展示 （第７講義棟：１階ホール） かながわ造形教育実践フォーラム・作品展示 （第７講義棟：１階オープンスペース）
10:00～12:00	口頭発表（５会場） （第７講義棟：A:7-101、B:7-103、C:7-104、D:7-201、E:7-202）	
12:00～13:00	昼食（第１食堂）	
13:00～15:30	口頭発表（５会場） （第７講義棟：A:7-101、B:7-103、C:7-104、D:7-201、E:7-202）	
15:45～17:45	シンポジウム「美術の現状　教科としての価値の再定義」 （教育文化ホール大ホール）	
18:00～19:30	懇親会（第１食堂）	

第２日目

平成２７年 ９月２１日（月・祝）教育人間科学部（第７講義棟-第６講義棟）

8:50～	学会・部門　受付（第６講義棟１階入口：正門徒歩 10 分）			
9:30～11:30	口頭発表 （第７講義棟：A:7-101、B:7-103、C:7-104、D:7-201）		11:00 集合 美術教育学生会議 （第７講義棟） （7-301）	ポスター展示 （第７講義棟：１階ホール） かながわ造形教育実践フォーラム・作品展示 （第７講義棟：１階オープンスペース）
11:30～12:30	ポスターセッション （第７講義棟：１階ホール）	かながわ造形教育実践フォーラム （第７講義棟：1 階ラウンジ）		
12:30～13:30	昼食（第１食堂）			
13:30～14:30	日本教育大学協会全国美術部門協議会 （第６講義棟：6-101）			
14:40～15:40	口頭発表 （7 号館：A:7-101、B:7-103、C:7-104）			
15:40～16:10	「かながわ造形教育実践フォーラム」追加時間			
16:20～17:20	日本教育大学協会全国美術部門 大学美術教育学会 合同総会 （第６講義棟：6-201）	全美協総会 （第６講義棟：6-102）		
17:20～17:50	引継ぎ：大会運営理事 H27 横浜国立大学 → H28 北海道教育大学 （第７講義棟：7-101）			

大会当日　受付
大会開会式
部門協議会
合同総会 会場
教育６号館

S3
1

前日会議（会議受付）
口頭発表 会場
ポスター発表 会場
かながわ造形教育実践フォーラム
教育７号館

S2
2

シンポジウム 会場
9/20(日) 15:45～
教育文化センター
大ホール

S1
2

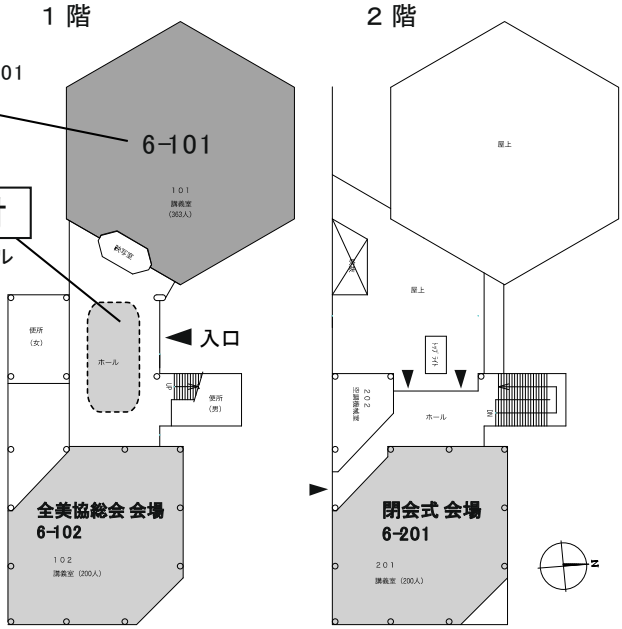
第54回 大学美術教育学会「横浜大会」会場　順路

正門からの ご案内　徒歩約10分（受付まで）

■ 教育6 号館

大会開会式 会場 6-101
部門協議会 会場
合同総会 会場

受付
1階ホール



【 横浜国大へのアクセス】

◎ 新幹線 新横浜駅から
↓地下鉄 約7分)
三ツ沢上町 下車
↓徒歩 約15分)正門

◎ 羽田飛行場から
↓京急空港線 約30分)
横浜駅 着 ＊以下参照

◎ JR横浜駅 西口から
↓地下鉄 約4分)
三ツ沢上町 下車
↓徒歩 約15分)正門

◎ JR横浜駅 西口から
↓バス 約20分)
岡沢町 又は 正門前 下車
↓徒歩 約3分)正門

正門↓徒歩 約10分)受付

■ 教育7 号館

口頭発表 A～E: 全5会場

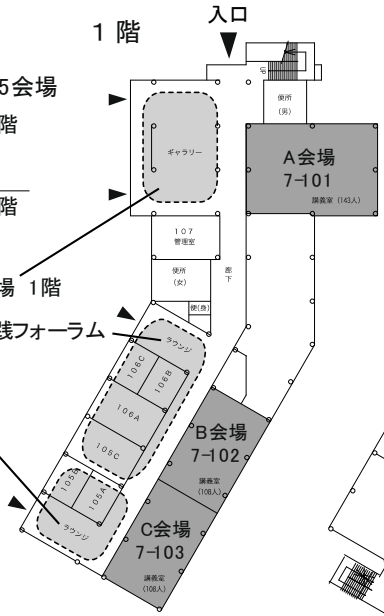
A会場: 7-101 1 階
B会場: 7-102
C会場: 7-103

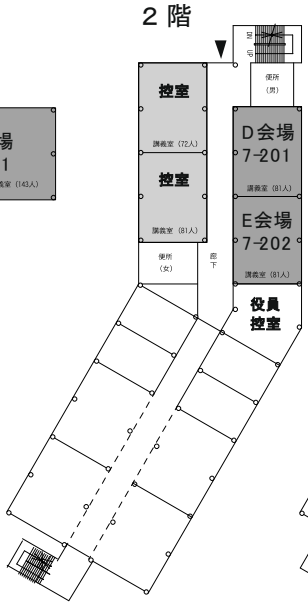
D会場: 7-201 2 階
E会場: 7-202

ポスターセッション 会場 1階

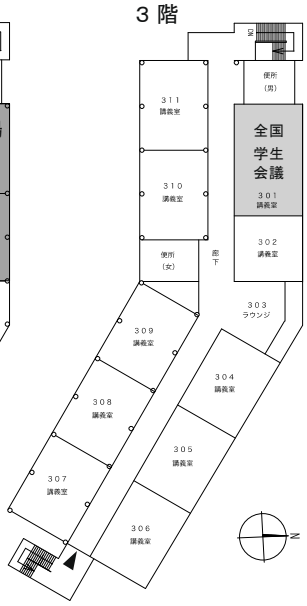
かながわ造形教育実践フォーラム
1 階

業者出店ブース
1 階





★前日会議 会場
全国学生会議 会場
3 階



正門までのアクセス

※駐車場の用意ができませんので、公共交通機関をご利用ください。

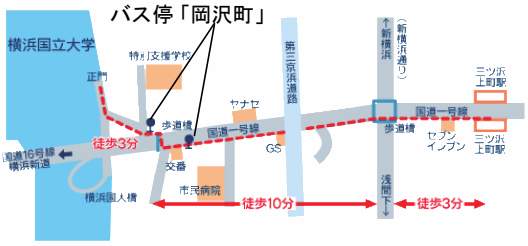
大学構内まで乗り入れるバスは土日祝日は運行しませんので、土日については下記バスをご利用ください。(時刻表は裏面をご覧ください。)

【横浜駅西口よりバス乗車】(バス所要時間約 15 分～20 分)

10 番乗り場〔相鉄バス〕 浜 5 系統 交通裁判所(経由)横浜駅西口 行
11 番乗り場〔横浜市営バス〕 202 系統 循環外回り 横浜駅西口 行
14 番乗り場〔横浜市営バス〕 201 系統 循環内回り 横浜駅西口 行
14 番乗り場〔神奈中バス〕 1 系統 中山駅 行

「岡沢町」下車 正門まで 徒歩 3 分

※月～金(祝日を除く)については、上記の他、大学構内まで乗り入れるバスがあります。「横浜国立大学正門前」で下車してください。(詳細は裏面のとおり。)



横浜大会シンポジウム「美術の現状　教科としての価値の再定義」

日時：２０１５年９月２０日（日）　１５：４５～１７：４５
場所：教育文化ホール大ホール

パネリスト　・小野 康男　横浜国立大学 美術理論・美術史
・岡田 温司　京都大学 人間環境学研究科 西洋美術史（外部招聘）
・木下 史青　東京国立博物館 デザイン室長（外部招聘）
・山木 朝彦　鳴門教育大学 美術科教育
・小澤 基弘　埼玉大学 絵画　　**＊司会進行：渡辺邦夫**

横浜大会シンポジウム「美術の現状　教科としての価値の再定義」に向けて

このシンポジウムでは、テーマを「美術の現状　教科としての価値の再定義」と設定しました。大学美術教育学会は、初等・中等の図画工作・美術科教育について研究するとともに、初等・中等の教育を将来担うことになる学生に対する教育についても研究することを使命としています。いずれの教育も、「美術」なるものを参照することによって成り立っています。しかし、わたしたちが漠然と理解する「美術」はあまりにも西洋近代と結び付いた価値概念であるように思えます。一方、19 世紀、ルネサンス以来の透視図法的空間の絶対性が疑問視されて以来、子どもの美術やプリミティヴ・アートの発見、さらに 20 世紀におけるさまざまな「主義」の変遷を経て、サブ・カルチャーと呼ばれていたものがむしろ文化の主流となるなか、現在、参照することのできる「美術」という価値概念は存在するのだろうかという疑問さえ浮かんできます。

「美術」という価値概念をひとまず括弧に入れて、視覚に関わる対象を生み出すことで、人は何をなしているのだろうか、そしてそれを受け継ぐことはいかなる意味をもつのだろうか、という原点に立ち返って、教科のあり方を考えることが必要なのではないか、という素朴な疑問がこのシンポジウムのテーマのもととなっています。

この６月、毎日新聞（Web 版 2015/06/20）で人工知能（AI）に関する興味深い記事が配信されていました。アメリカの企業を例に取り、ネット上のビッグ・データに対して、文章構成上の癖を与えれば、新聞記事から文学作品まで人工知能によって作成可能だという記事です。取り上げられていた企業は、シェイクスピアは可能だと自負していました。人が、新聞記事や文学作品、さらには美術作品を消費する立場にとどまるなら、人が生み出すものであれ、人工知能が生み出すものであれ、違いはないのかもしれません。しかし、そこでは、人が社会のなかで自己を形成し、そして社会そのものを形成していく力は確実に失われていくだろうと思います。

この大会全体のテーマは「多様な文化の時代における図画工作・美術科教員の養成」です。情報通信技術に支えられたグローバル化の進展とともに、多様な文化を多様なままに尊重するという多元文化主義が唱えられる一方で、文化・文明の異質性を強調する「文明の衝突」も危惧され、その危険性も激化しています。現代における知的生産の問題にしても、多様な文化の問題にしても、昨日今日生じた問題ではありません。しかし、その深度、その強度が人々の生活のなかにますます浸透してきました。グローバル時代の一日 24 時間一週 7 日の業務をいちばん痛切に感じているのは Line に縛られた子どもたちかもしれません。

こうした人間社会の全般的な変容のなか、教育も、アクティヴ・ラーニングに代表されるように、大きな変化を求められています。図画工作・美術科教育は、公教育として、一斉教育の枠内で、個々人の能力に応じた学習、プロジェクトに基づいた協働など、これからの時代に要請される教育を先駆けて実践してきた面もあったのではないかと思います。何よりも重要なのは、子どもたちのモチヴェーションを育むことでしょう。ある特定の内容を学ぶことだけではなく、モチヴェーションをもつことを学び、それをかたちに表すことを学ぶ、まさに学ぶことを学ぶ、これこそ図画工作・美術科教育の困難であるとともに自負であったと思います。

このシンポジウムでは、それぞれのご専門のなかで、美術についての理解を人間理解の根本において追求してきたシンポジストの皆さんに参加していただいています。フロアを含め、持続可能な社会という大きな視野も含めて、今後の図画工作・美術科教育の目標にとって示唆となる議論を展開していきたいと思います。

日本教育大学協会全国美術部門副代表　シンポジウム起案パネリスト　小野康男

大学美術教育学会・日本教育大学協会全国美術部門（合同企画）× 神奈川造形教育協議会（招待）

かながわ造形教育実践フォーラム

大学美術教育学会横浜大会では，神奈川県造形教育協議会とのタイアップにより，神奈川県下の小・中学校，高等学校，学童施設の先生方が指導された造形活動，図画工作・美術科の造形教育実践の作品展示（下記「**① 作品展示**」），およびその展示作品を囲んだセッション（下記「**② 作品展示＋セッション**」）を実施します。

- 神奈川の実践を囲んで語りあいませんか？
- 実践の交流を通して教育研究について考えてみませんか？

なお本企画は，どなたでもご参加いただけます。外部からの参加費も無料です。学会員，学会参加者，神奈川県の造形教育実践家の交流の機会となることを願っています。

① 作品展示　… 9 月 20 日（日）－ 21 日（月・祝）

- 幼児・児童・生徒・学生の作品（作品，写真，映像）を大会会期中に展示します。
- 日時 ： 9 月 20 日（日）－ 21 日（月・祝）常設展示（出展者は次頁参照）
- 場所 ： 横浜国立大学 教育人間科学部 教育棟 第 7 講義棟 1 階 ホール

② 作品展示＋セッション　… 9 月 21 日（月・祝）11:30 － 13:30

- ①の作品展示に加え，出展者（実践者）が作品を前にして，学会参加者やフォーラム参加者と質疑応答を行います。また実践資料の配布や情報交流スペースの設置も行います。
- 日時 ： 9 月 21 日（月・祝）の下記４つの時間枠で実施（発表者は次頁参照）
  - A … 11:30 ～ 12:00
  - B … 12:00 ～ 12:30
  - C … 12:30 ～ 13:00
  - D … 13:00 ～ 13:30
- 場所 ： 作品展示会場（第７講義棟：１階 オープンスペース）

① 作品展示 出展者一覧（予定・敬称略・五十音順）

相原典子（川崎市立王禅寺中央中学校），飯田哲昭（横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校），
石田貴子（神奈川県立鶴見養護学校），井田善之（横浜市立小机小学校），
藤原美穂（公益財団法人 藤沢市みらい創造財団 たいよう児童クラブ），
上光陽（神奈川県立旭陵高等学校），内海園恵(代表)＋神山素来＋粟津謙吾（桐蔭学園小学部），
荻島千佳（横浜市立上飯田中学校），甲斐秀幸（神奈川県立上矢部高校），
笠本健太（横浜市立西寺尾小学校），片桐彩（神奈川県立大和南高等学校），
金阿彌勉（横浜市立泉が丘中学校），木村裕子（横浜市立深谷台小学校），
小森恵（川崎市立玉川中学校），澁谷典子（川崎市立小田小学校），島津泉（横浜市立芹が谷中学校），
鈴野江里（横浜国立大学附属鎌倉中学校），芹ケ野未来（横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校），
芹沢康好＋藤岡牧子（相模原市立桜台小学校），高松智行（横須賀市立明浜小学校），
竹下護（横浜市立境木小学校），竹田まどか（横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校），
中澤務（横浜市立上の宮中学校），長澤秀行（川崎市立南加瀬中学校），
中島康順（神奈川県立寒川高等学校），永縄啓太（横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校），
長谷川優（神奈川県立希望ケ丘高等学校），古内久（横須賀市立長沢中学校），
増子朗（茅ヶ崎市立梅田小学校），丸山圭子（川崎市立橘中学校），南澤寛樹（横浜市立桂小学校），
山田香織（横浜市立本郷中学校），山田礼子（川崎市立犬蔵小学校），
山本実（和光大学表現学部芸術学科非常勤講師），吉田岳雄（横浜市立二俣川小学校），
米田樹史（横浜市立浦島小学校）

② 作品展示＋セッション 発表プログラム（予定・敬称略・五十音順）

9 月 21 日(月・祝) ※ 発表の時間は，予定変更となることがあります。当日の掲示もご確認ください。

A：11:30 ～ 12:00	内海園恵＋神山素来＋粟津謙吾（桐蔭学園小学部） 笠本健太（横浜市立西寺尾小学校） 鈴野江里（横浜国立大学附属鎌倉中学校） 荻島千佳（横浜市立上飯田中学校） 長谷川優（神奈川県立希望ケ丘高等学校）
B：12:00 ～ 12:30	澁谷典子（川崎市立小田小学校） 芹ケ野未来（横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校） 米田樹史（横浜市立浦島小学校） 飯田哲昭（横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校） 島津泉（横浜市立芹が谷中学校） 上光陽（神奈川県立旭陵高等学校）
C：12:30 ～ 13:00	竹下護（横浜市立境木小学校） 竹田まどか（横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校） 金阿彌勉（横浜市立泉が丘中学校） 小森恵（川崎市立玉川中学校） 中島康順（神奈川県立寒川高等学校）
D：13:00 ～ 13:30	永縄啓太（横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校） 南澤寛樹（横浜市立桂小学校） 丸山圭子（川崎市立橘中学校） 山田香織（横浜市立本郷中学校） 山本実（和光大学表現学部芸術学科非常勤講師）

主 企画担当　　大泉義一

研究発表

■口頭発表　横浜国立大学教育学部　第７講義棟　口頭発表 20 分、質疑応答５分、移動５分
（注意　１．発表の準備は、控え室の 第７講義棟　7-211 教室にて行ってください。
２．研究発表の進行は次の通りです。一鈴（15 分経過）、二鈴（20 分経過）、質疑応答（５分）
３．発表に使用する PC は各自持ち込んでください。Mac は VGA 変換アダプターが各自で必要です。

【第１日目】

	A 会場（7-101 室）	B 会場（7-103 室）	C 会場（7-104 室）	D 会場（7-201 室）	E 会場（7-202 室）
10:00 ① 10:25	美術教育における地域ブランドの学習活動を支える担い手に関する一考察 橋本 忠和（北海道教育大学）	保育園・幼稚園・小学校の合同造形授業の試みについて vol. 2 森高 光広（植草学園大学）	「オノマトペを素材にした絵本・アニメーション表現の実践」 畑中 朋子（和光大学芸術学科）	美術科教育における身体装飾ついてーネイルアートを題材とした授業実践の報告と考察 吉澤 陵（上越教育大学大学院）	保育士･幼稚園教員と小学校教員の造形表現活動に対する意識 ー自己認識と感情曲線による学生との比較ー 畠山 智宏（清和大学短期大学部）
10:30 ② 10:55	図画工作・美術への〔苦手意識〕の研究 Ⅲ ー苦手意識とそれを減少させるための要素ー 降籏 孝（山形大学）	幼児期の子どもの造形表現行為と保育の場に関する研究 ― 4,5 歳児を対象としたパイプを使用した題材から ― 村田 透（大阪大谷大学）	シンガポールの初等・中等学校における美術教育の実践状況 佐々木 宰（北海道教育大学）	食用色素（食紅）の彩色材料としての可能性について 笹原 浩仁（福岡教育大学）	明治期における水彩画技法書の再考 ―大下藤次郎『水彩画之栞』の再評価の試み― 甲斐 夕加里（佐賀大学大学院）
11:00 ③ 11:25	なぜ「造形遊び」は定着しないのか？ 阿部 宏行（北海道教育大学）	子どもの感性を育てる鑑賞の学習指導・評価に関する開発研究ー尾道市立瀬戸田小学校との協働型アクション・リサーチを通してー 中村 和世（広島大学）	カンボジア美術教育の再始動 ー次期教育課程改訂を視野に入れた取組ー 鈴木 光男（東京未来大学）	漫画と絵画で描かれる運動の表現 福地 英臣（福岡教育大学大学院）	明治期の松本幼稚園における図画教具に関する研究 牧野 由理（城西国際大学）
11:30 ④ 11:55	20 世紀後半以降の日本美術科教科書と「短い適応」に関する研究 山口 喜雄（宇都宮大学）	テクスト間相互関連性概念に基づく鑑賞学習の実践（Ⅰ）-バーチャルとリアルを一体化するデジタル鑑賞コンテンツの構想- 安東 恭一郎（香川大学）畑山 未央･結城 孝雄（東京家政大学）	1900 年代アメリカにおける City and Country School の実践 ～ニューヨークの芸術論争が形成した「創造性」教育～ 伊東 一誉（東京学芸大学大学院連合学校）	デッサン力のためのグリザイユ画の実践 横江 昌人（小松市立高等学校・金沢美術工芸大学 非常勤）	福島の人たちの声を世界へ届けるドキュメンタリー映画『いわきノート』 制作報告と作品紹介 林 剛人丸（筑波大学創造的復興プロジェクト）

【第１日目】

	A 会場（7-101 室）	B 会場（7-103 室）	C 会場（7-104 室）	D 会場（7-201 室）	E 会場（7-202 室）
13:00 ⑤ 13:25	モダンテクニックを扱った教材についての一考察 八重樫 良二（北海道教育大学）	テクスト間相互関連性概念に基づく鑑賞学習の実践（Ⅱ）-デジタルコンテンツを活用した美術鑑賞授業の検証- 畑山 未央（東京家政大学）・安東 恭一郎（香川大学）結城 孝雄（東京家政大学）	美術教育の視点から見たアメリカ合衆国におけるアートセラピーの展開についての一考察 －イーデス・クレーマーの「治療としての芸術」を振り返る－ 伊東 留美（南山大学短期大学部）	「考え抜く」鍛練としてのデザイン基礎教育 富山 祥瑞（愛知教育大学）	小中連携と発問で深まる美術鑑賞授業の実践 田村 乙海（堺市立金岡南中学校）
13:30 ⑥ 13:55	パブリックに公開するパフォーマンス評価を導入した異文化理解型美術鑑賞学習の研究 Assessment 濱口 由美（福井大学） 大橋 武史（福井大学教育地域科学部附属学校）	「美術館と学校教育の連携に関する一考察-子どもの考える力，表現する力，自己肯定感を育むための鑑賞活動の試み-」 青木 善治（新潟県立近代美術館）	「造形あそび」の研究 村上 真理（福岡教育大学大学院）	水面をテーマとした作品制作について 吉村 弥生（福岡教育大学大学院）	生徒の美術に対する認識を広げる授業の考察－高等学校での実践から－ 塚﨑 砂也加（大分大学大学院）
14:00 ⑦ 14:25	あらゆる「モノ」がインターネットにつながる「ＩｏＴ（Internet of Things）」のイマ，再度，ものづくり教育を考える 佐藤 昌彦（北海道教育大学） 宮脇 理（元筑波大学）	親子での表現遊びに関する意識と影響 -事前事後のアンケート調査から- 吉川 暢子（筑紫女学園大学短期大学部）	子どもの造形的な活動の相互行為分析による臨床的研究のための基礎的考察Ⅱ ～「造形遊び」の授業提案およびアンケートの分析をもとに～ 秋山 敏行（愛媛大学）	奥ゆきとモノトーンによる心象空間－東山魁夷の作品をとおして－ 西丸 純子（上越教育大学大学院）	「つくりたいものをつくり隊」キックオフ・プロジェクトの基礎的研究Ⅰ－愛媛県松山市立の小学校を対象とした「工作に表す活動」に関するアンケート調査の分析と考察－ 福井 一真（愛媛大学）
14:30 ⑧ 14:55	幼児期における表象理解とスケール理解からみた美術作品の受容 －メタファー思考としての見立てと MI 理論の関連性－ 池内 滋朗（埼玉大学）	スペインと日本の初等美術教育の比較（３） －初等教育美術教科書（低学年）の作家作品に関する分析を中心として－ 網谷 夏実（富山大学大学院）	造形活動におけるこどもたちの視線 武田 信吾（鳥取大学）	芸術実践と教育の結節点を探るⅡ 大谷 祥子（滋賀大学大学院）	鑑賞の場の今日的意味－知覚をめぐる視座から－ 長井 理佐（東京女子体育大学）
15:00 ⑨ 15:25	向井潤吉作『影（蘇州上空にて）』とセザンヌ作『オヴェールの展望』の比較鑑賞論－鑑賞能力と身体感覚・触覚的物質感把握力を見据えて－ 立原 慶一（宮城教育大学）	スペインの大学における日本の図画工作科の授業） －教科書の題材を使用して－ Pastor Matamoros Sofia（富山大学大学院）	大学生と中学生の写真による対話の試み 佐藤 哲夫（新潟大学）	内モンゴル自治区の教員養成システムに関する考察 格根 薩仁（新潟大学）	ねぷた灯籠製作をめぐる子どもの表現と教材の展開 蝦名 敦子（弘前大学）

【第２日目】

	A 会場（7-101 室）	B 会場（7-103 室）	C 会場（7-104 室）	D 会場（7-201 室）	E 会場（7-202 室）
9:30 ⑩ 9:55	多文化時代におけるスクリーン・リテラシー（1）～中学校美術授業における映画制作の実践～ 甲田 小知代（新潟市立潟東中学校）	絵画制作における素材と造形行為の関係についての一考察－「切る」「貼る」ことによる作品の展開 － 山本 翔真（大阪教育大学大学院）	英語活動を取り入れた図画工作科の授業の実践と考察 樋口 和美(福岡教育大学)		
10:00 ⑪ 10:25	多文化時代におけるスクリーン・リテラシー（2）～国際モバイルムービー・プロジェクトの試み～ 片桐 彩（神奈川県立大和南高等学校）	図画工作科における材料としての紙の活用に関する考察 魚住 志貴（富山大学大学院） 隅 敦（富山大学）	嗅覚・触覚を意識した観察が児童生徒の絵画表現に及ぼす影響の研究 清田 哲男（岡山大学大学院）		
10:30 ⑫ 10:55	多文化時代におけるスクリーン・リテラシー（3）～えいがでじっけん:ビジュアル・コミュニケーション能力育成に～ 長谷 海平(一橋大学 情報化統括本部)	教科学習の若手教員の授業力向上に資する基礎的研究 ～初任 1 年目の実技教科の授業分析を中心に～ 隅 敦（富山大学）	画塾彰技堂の講義録『画図中ノ明暗』と英語原書の比較について 重村 幹夫（仁愛女子短期大学）		
11:00 ⑬ 11:25	多文化時代におけるスクリーン・リテラシー（4）～高校生の作品鑑賞として～ 中山 周治（日本映画大学・神奈川県立大和高校）	書道教育における批評－美術教育における批評についての考察との比較から－ 田畑 理恵（常盤大学）	図画工作科のデジタル教科書とその活用に関する考察 -小学校教員への聞き取り調査を基に- 山田 芳明（鳴門教育大学大学院）・佐藤 賢司（大阪教育大学）		
14:40 ⑭ 15:05	多文化時代におけるスクリーン・リテラシー（5）～少数者への眼差し～ 宮脇 理（元筑波大学） 柳沼 宏寿（新潟大学）	図画工作科における CLIL による指導法の実践的研究－版を使った表現を英語で教える授業の考察－ 藤井 康子(大分大学)	子どもの主体的造形表現を促す自主選択可能な環境の考察 香月 欣浩（四條畷学園短期大学）		
15:10 ⑮ 15:35	多文化時代におけるスクリーン・リテラシー（6）～教育全体を貫く原理として～ 柳沼 宏寿（新潟大学）	図画工作科の教科の特性について考える－教員養成課程における課題から－ 山下 暁子（和光大学）	静物画の読解的鑑賞「ヴァニタス」という視点 岡田 匡史（信州大学）		
15:40 ⑯ 16:10	「かながわ造形教育実践フォーラム」　１階オープンスペース				

ポスター発表一覧

◇ポスター発表

	発　表　題　目	発　表　者
1	アクティブラーニングにおけるイメージメディアの展開と「対話性」 ― 教科教育(図工・美術)における演習課題の開発と実践を踏まえて ―	赤木 恭子（熊本大学）
2	多様な子どもの参加を目指したアートワークショップの環境構成 ― 保育園児と特別支援学校生徒による「偶然性」の交流に着目して ―	屋宜 久美子（沖縄県立芸術大学） 池亀 直子（秋田公立美術大学）
3	大学生と保育所が行うアートプロジェトの研究Ⅱ ―「きのこロボット THE MOVIE」の実践から ―	大成 哲雄（聖徳大学）
4	多主体間協働による「子どものアート研究会」 ～ COC 事業地域志向研究 ～	北沢 昌代（聖徳大学）
5	透視図学習による描写力向上を目指した授業	坂元 愛史（サレジオ工業高等専門学校）
6	ネパール都市部における美術教育の基礎調査	竹下 万生（上越教育大学大学院）
7	鳥取の美術文化に関する地域資源を活用した教育実践についての研究（１） ― 鳥取の地域資源を活用した教育実践についての実態調査 ―	武田 信吾（鳥取大学） 筒井 宏樹（鳥取大学）
8	鳥取の美術文化に関する地域資源を活用した教育実践についての研究（２） ― 鳥取の美術文化に関する地域資源の実態調査 ―	筒井 宏樹（鳥取大学） 武田 信吾（鳥取大学）
9	地域連携における醍醐寺所蔵重要文化財の公開について ― 中学生を対象とした鑑賞授業の報告	田中 直子（総本山醍醐寺）
10	幾何フレームの展開による立体造形と空間の研究	寺延 見奈子（福岡教育大学大学院）
11	対話型鑑賞におけるパフォーマンスアートの可能性Ⅱ ― 実践的研究「イカス！イカ墨ワールド 2015」―	名取 初穂（國學院大學栃木短期大学・宇都宮大学大学院）
12	乳幼児の心を育む保育者の絵本研究 ― 母と子に捧げる読み聞かせ実践から ―	保田 恵莉（花園大学）
13	ホースを使った乳幼児向け玩具の製作	守川 美輪（宮崎国際大学）
14	形の変容を促す枠組み（PT フレーム）	世ノ一 善生（滋賀大学）
15	「色相環の絵の具：ARTEO」の使用実例 ―子どもから画家まで―	渡辺 邦夫（横浜国立大学）

◇ポスター展示

1	ワークショップ実践	原田 美穂子（横浜国立大学大学院）

平成 27 年度　日本教育大学協会全国美術部門協議会

日　時：２０１５年9月２１日（月・祝）　１３：３０～１４：３０
会　場：第６講義棟：6-101

テーマ：『うみだす教科の内容学』について考える

コーディネーター：新野 貴則（山梨大学）
パネリスト　　：小澤 基弘（埼玉大学）　石井 壽郎　（東京学芸大学）
　　石上 城行（埼玉大学）　喜多村 徹雄（群馬大学）